

「（仮称）台東区観光振興方針」策定に向けて

（仮称）台東区観光振興方針の骨子案について

2026年7月22日
第2回 台東区観光振興推進会議 資料

1. 前回〔第1回推進会議〕案からの見直しの要点
2. (仮称)台東区観光振興方針の骨子案

1. 前回〔第1回推進会議〕案からの見直しの要点

- (1) 前回の振り返り
- (2) 前回案からの見直し理由と要点
- (3) 見直しの方法（概要）

(1)前回の振り返り

※ 第1回推進会議 資料3「次期方針について」より

(1)目標とする姿(仮)

三方良し(区民・事業者・来訪者)

～台東区の発展(住みやすさの向上、産業の発展、伝統・文化の継承)に寄与する観光の実現～

(2)理念(仮)

観光の持続的発展(前計画から継承)

(3)基本方針(仮) ※主体を軸とした4本柱

【区民】

区民生活と観光との調和

【区内事業者】

観光地であることを活かした
文化・産業の持続的発展と恩恵
の循環

【来訪者】

質の高い観光体験の提供／的
確なプロモーション／安全・安
心な観光地づくり

【体制／基盤】

持続可能な観光を支える推進体制と基盤の構築

(4)前回会議でご議論いただいたこと

- ①目標とする姿:「三方良し」は近江商人の言葉。台東区ならではの表現とすべきではないか
- ②理念:台東区にとっての観光の「持続可能」「持続的発展」とは何か、その中身をどう表すか
- ③基本方針:3つの主体+体制の整理軸でよいか。ほかに認識しておくべき現状はないか

(2)前回案からの見直しの理由と要点

- 前回の会議で確認したとおり、観光の影響は「ある主体にはプラス、別の主体にはマイナス」となるなど、同じ主体の中でも分かれる（例：前計画でも成果指標は目標を上回る一方、区民の受容度は急落）。
- 主体ごとに方針を立てる整理では、「主体の間や内部で分かれる多層的な影響」が見えなくなる。三方良しの視点を維持しつつ、課題テーマ別の方針整理が必要不可欠と考えた。

前回案：「主体」を軸とした整理

【区民】【区内事業者】【来訪者】+【体制/基盤】

- 基本方針＝「三方良し」の主体ごとに整理
- 主体の関係や調和の問題（暮らしとの調和、集中の分散、恩恵の還元）が見えづらくなる

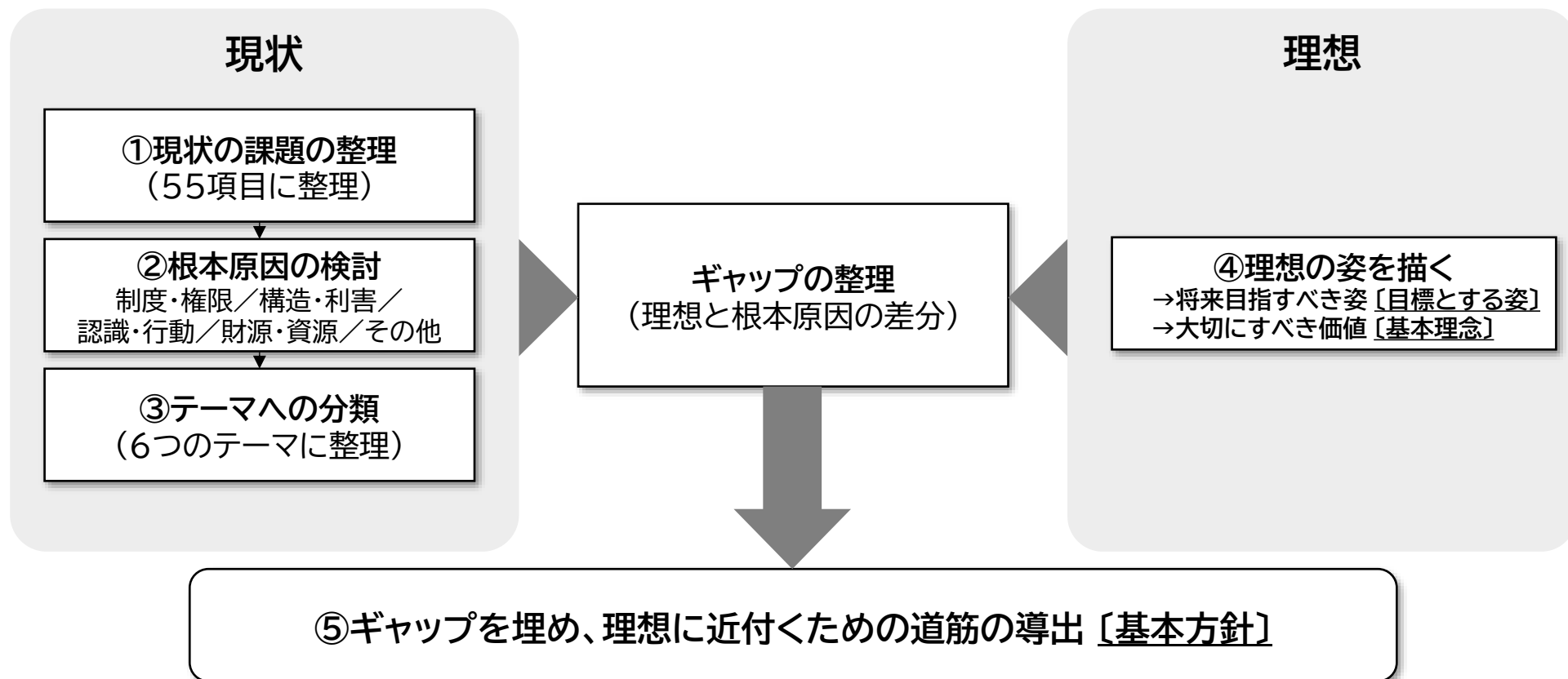
「解決すべき課題」を軸とした整理

意見・課題→根本原因→テーマ→理想の姿（三者で描く）→基本方針

- 基本方針＝「解決すべき課題」から積み上げて見出したテーマごとに整理
- 「三方良し」の視点は将来像の中で維持
- 主体の関係や調和の問題が見える形で整理できる

(3)見直しの方法(※詳細は「別添」資料を参照)

- ①②これまでの会議等の記録、調査結果等から意見・課題を洗い出し、根本原因について検討と整理を行った
- ③ 課題について、共通する論点・根本原因の近さをキーに6つのテーマに分類した
- ④ 理想の姿を三者(区民・事業者・来訪者)の視点から描いた
- ⑤ 現状と理想とのギャップを埋め、理想に近付くための道筋を整理した



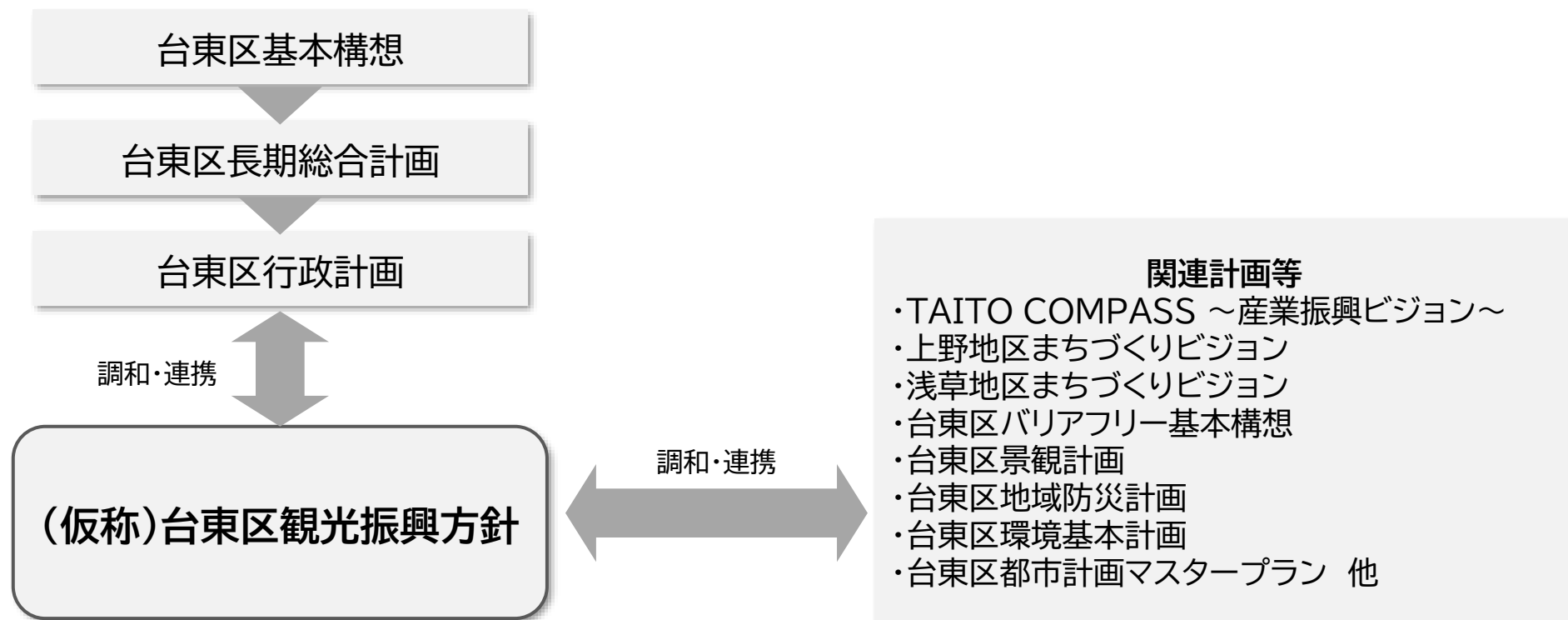
2. (仮称) 台東区観光振興方針の骨子案

- (1) 方針の位置づけ
- (2) 基本理念と将来像
- (3) 基本方針と分野ごとの取組方針
- (4) 本方針の推進と進捗管理の仕組み

(1)本方針の位置づけ

※第1回会議 資料1「次期方針の位置づけ及び期間」をもとに作成

- 本方針は、「台東区基本構想」や「台東区長期総合計画」等を踏まえ、歴史と文化が薫る、魅力ある国際文化観光都市の創造に向け、区民、事業者、観光団体、区などが一体となって取り組みを進めるための、共通の方針である。
- 本方針は、「TAITO COMPASS ～産業振興ビジョン～」、「上野地区まちづくりビジョン」、「浅草地区まちづくりビジョン」などの関連計画等や、国・都の政策とも適切に連携を図りながら、推進していくものである。
- 本方針の期間は、令和9(2027)年度から令和12(2030)年度までの4年間を目途とする。外部環境の変化や施策の進捗を踏まえ、必要に応じて見直す。



(2)基本理念と将来像

台東区における観光の「基本理念」と「目標とする姿(将来像)」を下記のとおり定めることとしたい。

基本理念

「観光の持続的发展」

前計画・方針から継続。『観光資源や区民の生活環境、生活文化等を保全し、区民生活を向上させ、将来世代にも継承していく「観光の持続的发展」を、観光振興の理念とする』と定めた言葉は、昨今において更に重要度を増していることから、次期方針においても継続して用いることとしたい。

目標とする姿(将来像)

(暮らし ・ 産業 ・ 観光)

**区民・事業者・来訪者が調和し、
地域の営みが次世代へ受け継がれるまち**

区民が安心して暮らせる日常があり、地域産業に観光の恩恵が広く行き渡り、来訪者が台東区ならではの価値と出会う。観光の持続的发展には、三者(区民、事業者、来訪者)の調和を図ることが不可欠であるという認識から、三者の調和を目指す文言を追加した。

前計画・方針の目標とする姿である「本物に会えるまち」は、区の施策や来訪者向けの媒体などへの掲載を通じて、理解を深め続けてきた言葉である。『心が作り出す』と謳った台東区の本物を守り、受け継ぐ重要性が高まっていることから、次期方針においても継続して用いることとしたい。

(3)基本方針

基本理念に基づき、目標とする姿(将来像)の実現に向けて、本区における観光の基本方針の骨子を下記の6項目に定めることとしたい。

1 安全・安心・快適な暮らしと観光の調和を図る

ごみ・騒音・マナー違反などの生活環境問題に取り組む、区民の安心・安全な生活環境を守ります。

2 区内全域への回遊と分散を促す

特定エリアへの集中を防ぎ、区内全体を快適に巡れるように環境を整備します。

3 学びと出会いの価値を高める

奥深い歴史や文化に触れ、深く学べる「確かな価値のある体験」の観光を推進します。

4 観光の恩恵を地域産業へ波及させる

観光の恩恵を多様な産業へ広げ、地域経済全体が潤う仕組みづくりを進めます。

5 地域文化を次世代へ継承する環境を整える

観光の活力を活かして、地域文化を次世代へ継承する仕組みづくりを推進します。

6 長期的視点で観光をマネジメントする

客観的データに基づき、本方針を計画的に推進し、その進捗を管理する仕組みを構築し、運用していきます。

(4)本方針の推進と進捗管理の仕組み

本方針全体を推進し、その進捗を管理する仕組みを以下のとおり定めたい(基本方針6『長期的視点で観光をマネジメントする』を具体化する施策)。

1. 取組の進捗や現状の定量的な把握

区内における観光の現状や取組の進捗について、定量・定性的に把握する手法を検討し実施する。「台東区観光振興推進会議」等を通じて、進捗管理・見直しをすべき項目(最終目標(KGI)／中間的な指標(KPI))を設定し、目標値等を定めて評価する。

2. 取組体制

● 庁内の連携体制

庁内連携・連絡体制を構築し、本方針に基づいて関連施策を企画実施する。

● 台東区の観光に関わる各主体との連携体制

本区の観光に関わる各主体(区民、事業者、観光・商業団体、台東区、東京都、国、及び来訪者)と適切な連携を図る。

3. 進捗管理

国や都・観光関連団体などの多様な主体が参画する「台東区観光振興推進会議」において、方針に基づく政策の進捗を管理する。社会情勢の変化等に応じて、方針や目標の見直しを図るとともに、区民への適切な情報公開を行う。

◎本日の会議でご議論いただきたいこと

本日の会議では、(仮称)台東区観光振興方針の骨子案の全体像についてご議論いただきたい。

特に以下の3点について、この方向で進めてよいか、ご意見を賜りたい。

【1】基本理念と目標とする姿(将来像)について

- ・基本理念:「観光の持続的発展」
- ・目標とする姿(将来像):「区民・事業者・来訪者(暮らし・産業・観光)が調和し、地域の営みが次世代へ受け継がれるまち」

という方向でよいか。

【2】6つの基本方針について

課題整理から導いた6つの基本方針の構成・骨子は、目指す姿の実現に向けて過不足はないか。各方針の表現・重点の置き方について、お気づきの点はないか。

【3】本方針の推進と進捗管理の仕組みについて

本区の観光に関わる多様な主体(区民、事業者、観光・商業団体、区、東京都、国、及び来訪者)の連携と、推進会議を通じた進捗管理・見直しという進め方でよいか。